

立山

2011年8月11日東日本大震災から丁度5ヶ月にあたるこの日に立山に向かった。私は、毎年1~2回1人でも登れる夏山を選んで、山登りを楽しんでいます。今年は立山を選びました。立山を選んだ理由はアルペンルートの室堂まで公共交通で行くことが出来て、そこから往復4時間程度で行けるためです。

私と妻と2人で朝の5時に自宅を出発。今回は被災地特別ルールにて高速道路料金無料にするために、常磐自動車道の那珂インターから北関東自動車道、上信越自動車道、長野自動車道の麻績(おみ)ICを出ました。麻績ICを出たのはカーナビの指示によるものでしたが、ここから扇沢までに山越えがあって、狭い道も多くありました。正解は豊科ICを出て、国道147号を進む道でした。

扇沢では観光客が多くて、トロリーバス駅前の駐車場は満杯でした。このため、地元の係りの人が、駅から徒歩で7~8分の山林の中の駐車場に案内してくれました。室堂で1泊して帰る計画であるが、駐車場はOKか聞いたところ、問題ないとの返答でした。

こうして扇沢駅に着いたのが10時すこし過ぎで、10時30分のトロリーバスに乗ることが出来ました。トロリーバス、ケーブルカー、ロープウェイ、トロリーバスを乗り継いで室堂駅に着いたのは12時少し前だったように思います。昼食は途中の黒部平駅で次のロープウェイの待ち時間にすませてだったので、登山届を書いて直ちに雄山を目指して登り始めました。今晚の宿は室堂ターミナルの中にあるホテル立山を予約してだったので、妻は直ちにチェックインした後、ホテルの近くを散策した模様です。しかしながら、時々雨の落ちる状況でホテルを出たり入ったりの状況だったようです。

私は室堂の立山玉殿の湧水を頂いたあと、案内板を確認して、雄山の方向に歩き始めました。間もなく雪渓があり、多くの下山者で混雑していました。この中の山ガールに、アイゼンを付けなくても登れるか聞いたところOKとのことでした。この雪渓を過ぎてしばらくすると雨が気になる程度に強くなつたので、半ズボン、半袖シャツの上からレインウェア上下を着用しました。雨は時々強くなるし、あたりはうす暗いので、目的である高山植物に向けてシャッターを切るこしば少なく、カメラはバックに入ったままでした。

一ノ越山荘までは比較的なだらかな登りですが、ここを過ぎると急斜面になります。時々雨風が強くなります。冷たい雨と風が吹くときは、戻って明日の午前に登ろうかとともに考えました。ところが、そうこう考えているうちに雨は一時的ですが上がってしまいます。、いつになく息が上がっている自分、いつもより立ち止まる回数が多くなっている自分を自覚します。息を切らしてただ立ち止まるのはもったいないので、カメラを取り出して高山植物の撮影等を行いました。こんな時のために、今回新しく防水防塵カメラ(OLYMPUSのTough TG-810)を持って行きました。岩にへばりつくように頑張って咲いている高山植物をカメラに収めたり、ハイドレーションシステムの給水口からポカリを補給しながらゆっくりと登り続けました。気が付くと山頂に向かっている人はほとんどいませんでした。岩の間を抜けるように進むと、岩に黄色のペンキで書かれた右矢印を多く見かけるようになりました。この指示に従って右方向に旋回するとついに三角点のプレートに到着しました。三角点には下記の内容が記されていました。

一等三角点「立山
北緯36度34分21.2秒
東経13度37分01.9秒
標高2991.6m」

今回の大震災で、このポイントもすこし移動しているだろうと思いながら、あたりを見回しても、直ぐ下の一ノ越山荘すら見えません。晴れていればここから360度の大パノラマを楽しむことができたのに、残念でした。この三角点を写真に納めている時、ドンドンドンというおおきな太鼓の音が聞こえてきました。これは雄山神社のお祓いの合図のようです。

三角点を過ぎると、直ちに、雄山神社の社務所に到着、ここで500円を納めると、鈴のついたお札を頂いて、本社神殿に立ち入ることが出来ます。本社から戻されたら、本日最後のお祓いをしますから、頂上に行ってきて下さいと言われました。

そしてついに雄山の頂上、標高3003mの地点に到着しました。この場所はいつも、大勢の登山客で混雑し、頂上看板の横で写真を撮るのも容易ではありませんが、今日は私一人のみでした。ここで三脚を拡げて記念撮影をしました。雨が降っていて、しかも暗いので、良い写真は撮れませんでした。特に愛用のCanon EOS 5Dはオートフォーカスでシャッターが切れませんでした。仕方なくマニュアルフォーカスで2枚ほどシャッターを切りましたが、心配のため、OLYMPUS Tough TG-810でも撮影しました。

急いで社務所に戻ると、私よりさらに遅く到着した人がいて、其の人が戻って来るのを待つ

て、一緒にお祓いを受けました。お祓いは思ったより本格的で、先程、三角点で聞こえてきた大きな太鼓の音に始まって、祝詞ののちお祓い、最後にお神酒を頂きました。受付の時に頂いた鈴付お札の裏には次のように書いてありました。

私は今、日本三霊山立山の頂上に立った。一万尺巔頭の神庭に相対するものは神と私だけである

心眼に見ゆるものは全て神の光、心耳に聞ゆるものは全て神の声。神は私以外の何ものにも

与えない大いなる使命を私に与えている。私は神の子として私一人の尊い人生を強く生きよう。

今、天地合掌の立山頂上に立って私は固く心に誓った。



一等三角点「立山」



雄山頂上にて

若いころなら「フン!」と思わせるような内容ですが、流石この年になると、すこし有り難いお言葉に感じました。

計画では、ここからさらに大汝山まで足を延ばす予定でしたが、悪天候と自分のコンディションが良くないのでここから引き返すことにしました。下山時は、一般に、足への負担が強くなりますが、私の場合は登りよりも楽です。調子に乗って、途中で、足をひきづりながらゆっくり下っている女性2人を横目にスイスイと下りました。

するとどうしてでしょうか、スイスイのはずが、ズズーズズーと滑って、石がコロコロと転がり始めました。ひどいガレ場に入ってしまったようです。直ちに道を外れたと感じましたが、少し下れば、元の道に合流すると考え、危ないとと思いながらも、降りて行きました。その場所は大量の砂の上に大小の石が浮いている場所で、一歩足を入れると1メートルくらい流れるほど急斜面でした。大きな石が動き出して回転を始めたときは恐ろしくなりました。私は「ラーク」という言葉を思い出せなくて、ゴルフのファーという声を発しました。本当に怖くなつて元の道まで引き返す決断をしました。ガレ沢を横切ったところのハエマツの上に立って、あたりを確認したところ、一ノ越山荘が反対側に見えました。方向も間違っていたことを確認して、再び恐ろしいガレ場を横断し元に戻り、そこに生えているハエマツを乗り越えて、再び山を登る方向に進みました。ハエマツの下にも砂や石がびっしりで、枝から足をはずすと滑ってしまいます。しばらく登ったところにある、大きな岩の間から元の道に抜けることが出来ました。そこの岩には黄色いペンキの矢印が確認出来たので安心しました。ちょっと間違えただけだと感じましたが、

時計を見ると1時間近く経過していました。今でもいつ間違えたのかは判りません。どこかの時点で黄色の矢印を確認しないで進んでしまったのだと思います。道に迷ったり、遭難したりするの、こういうことなのだと思います。今日の山は悪天候でしたがホワイトアウトでなくて助かって思いました。

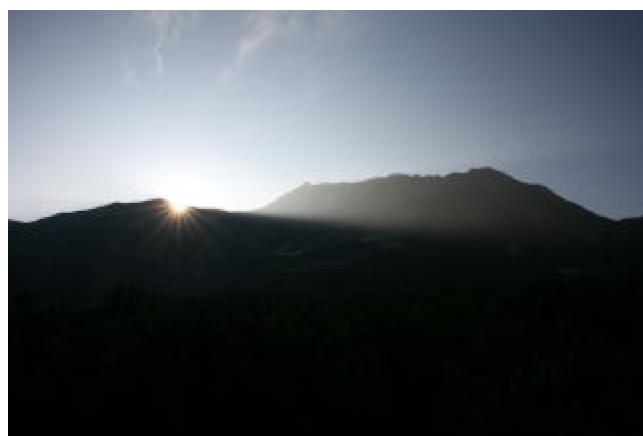
計画では、一ノ越山荘から浄土山、室堂山展望台を経由して、下山する予定でしたが、ガレ場事件と悪天候のため、元の道をひたすら下山し、ホテル立山に戻ったのは午後5時でした。妻はその時点でガレ場事件は知りませんでしたが「帰ってきて良かった」と事件のことを知っているかのような対応でした。ホテルの部屋は広くて立派なもので、標高2450の高地にあるとはとても思えません。夕食は6時に予約してあるところで、直ちに風呂に入り、続けて夕食を頂きました。料理は懐石で立派なものが、半分ぐらいしか箸が届きません。ビールもいつものようにさわやかではありませんでした。妻は美味しい美味しいといって次々と片づけていきます。昔なら私の残したものは全て妻の胃袋の中に入りましたが、最近はそうではありません。皆様よりペースが早すぎて、最後のデザートを待たずに席を立ちました。係りの人がデザートを部屋までお持ちしましょうかという問い合わせに、妻はいいですと断っていました。

部屋に戻ると私はベッドに一直線。数時間の爆睡でした。その後起き上ったとき少しおなかがすいたので、非常食として山に持って行ったチョコレートボール1箱を平らげてしまいました。

次の日の天候は晴れです。窓を開けると立山がくっきりと見えます。室堂平には未だ人の姿が見当たりません。私は早速寒さ対策をしてカメラを持って外に出ました。早朝は風もなく静かです。みくりが池に立山が映る写真を撮ることを目的の一つにして来ましたが、これは見事に成功しました。みくりが池付近で日の出もとらえることが出来ました。



みくりが池に映る立山



みくりが池付近から見た日の出

一旦ホテルに戻って食事を頂きました。朝食はバイキングだったので、好きなものをかつ量は控え目にして頂きました。チェックアウト後ホテルのロッカーに荷物を預けて、今度は妻と二人で室堂平を大きく一周しました。昨日回れなかった室堂山展望台コースを逆方向から登って室堂平全体の写真も撮ることが出来ました。高山植物も天気が良いと良い顔をしています。日本最古の山小屋立山室堂、日本一高所の温泉みくりが池温泉に入った後、そこで昼食を頂きました。この時間のみくりが池には波が出て立山の影ははっきりしません。

今回の山登りは初日の天候は悪く、アクシデントもありましたが、それでも山に来た満足感は少しも劣りません。山は不思議な魔力を持っています。

その日の午後アルペンルートを戻って、くろよんホテルに泊りました。さらに次の日は大町と安曇野の美術館巡りをして家に戻りました。本当に良い旅でした。健康と小さな幸せに感謝

します。

2011年8月ホームページにUP